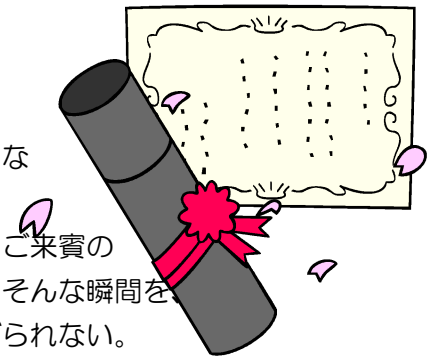
教育かわら版
こんにちは教育委員会です ふたたび

No.１５１
令和３年２月２８日発行
今金町教育委員会の会
文責：教育長　中山秀悦

コロナはまだ収まってはいません。決して油断はできません。ただ、専門家の方々を先頭に、人々の努力と蔓延防止への意識の維持、ワクチン接種の開始によって、昨年の今頃の不安と模索の日々とは違った雰囲気の中で生活できている自分がいます。

もう一踏ん張り、と言い切れる知識やデータを持ち合わせている人間ではありませんが、冷静な中にもどことなく希望の光を見いだしているのは春の近づきを感じているからでしょうか。



学校も卒業式シーズンを迎えています。学校の儀式の中で、これまでの足跡を振り返るという面では、おそらく一番感動的な儀式的行事である卒業証書授与式。在校生みんなと先生方と、そしてこれまで育ててくださったご家族、見守ってくださったご来賓の方々。沢山の人に見つめられる中で新たな第一歩を踏み出す。そんな瞬間を人数、合唱、送辞・答辞など、制限の中でしか実施させてあげられない。

そのことに心苦しさを覚えますが、せめてその日、校内で通信回線を使って感動を共有する術を、と町教育委員会としてもお手伝いさせていただきます。ご理解いただければ幸いです。

今金っ子　冬遊び
雪中レクリエーション
チャレンジ　ひろば

昨年は雪不足で、そして今年はコロナ禍で中止となった『ピリカふれあい歩くスキー大会』。

例年なら、道内各地から、そして地元・今金高等養護学校からもたくさんの参加をいただいて、競技の醍醐味と、ピリカの美しく広大な自然と、温かな食事で冬のおもてなしを楽しんでいただけたでしょうに。

「何か、今年の冬の思い出づくりはできないものか」



そんな中で社会教育グループが企画した『今金わくわくカレッジ　イマカレ特別編』が２月２８日（日）に開催されました。

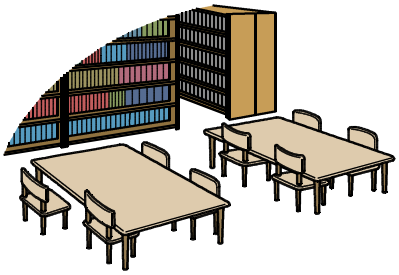
朝からの青空。風は少々ありましたが、日差しがあることで、穏やかな、ゆったりとした時間の空気が流れていました。

明日からは３月だな。そう、子どもたちの笑顔とご家族の温かい雰囲気を感じさせていただいたひとときでした。

教育委員リレーエッセイ

『もう一度、あの本を･･･』

今金町教育委員　船　木　　恵



「私の事、憶えていますか？」
突然、声をかけられた。

彼女に会ったのは何年ぶりだろう・・・・。
咄嗟のことですぐには思い出せないでいると、とびっきりの笑顔で「子どもの頃、図書室をいつも利用させていただいた〇〇です。」と話してくれた。
ああ！思い出しました。
そう、彼女は小学生の時からよく本を借りに通ってくれた子だった。
あの小さな子が、こんなに素敵に成長していたのに驚いたが、小さな頃の可愛い笑顔は、変わっていない。
「私、この春から大学で建築の勉強をするんです。とてもワクワクしています。」
「子どもの頃、図書室に行くのが楽しくて、お話もいっぱい聞いてくれて、とても嬉しかったんです。」
そうなんだ！！本当に良かった。
この子の成長過程に図書室が少しだけでもお役に立てた事に感謝した。



懐かしい思い出話をしながら、ふと、あの絵本がよぎった。
それは、バーバラ・クーニーが描いた『ルピナスさん』という本だった。

このクーニーの絵本には、いつも背すじがシャンとなる気分にさせてもらえる。
クーニーの描く女性像の共通点はある女流作家の書評によると、①毅然としている
②まっすぐである　③自由である　④人生を心底楽しんでいる　⑤孤独である　のだそうだ。
正にその通りといつも思う。





このルピナスさんは､老いや孤独をしっかりと引き受けた上で自由に生きた女性のストーリー。
誇りを持って選んだ人生がシャープな視点で描かれている。しかも決して淋しくはないのだ。

また、子ども時代を描いた作品には、小さな頃のたっぷりとした幸福を肯定しながら、それでも決して優しい風ばかりではないのだけれど、日々の生活の中で楽しさや美しさ、悲しみや発見を経験しながら大きくなっていく姿がある。
そして成長した一人の女性の凛とした生き方を描いた作品に辿り着く。





少女時代と大人の女性が交差するこのクーニーの絵本たちをもう一度読みたいと思った。



今金のキュートな彼女との再会で、再読の楽しみをもらえた。
再び出会うことの喜びはこの上なく懐かしく、また、新しい気持ちをも呼び起こしてもらえる。
彼女の人生もまた、これまでを大切にしながら煌めく道を歩んでくれると信じている。